

臼井 博教授・大瀬 隆教授退職記念号によせて

札幌学院大学人文学部長

岡 崎 清

2017年3月末日をもって長年人文学部を支えてくださいました大瀬隆教授と臼井博教授が本学の規定に従い、定年のご退職を迎えました。お二人には、その功績を称え、札幌学院大学名誉教授の称号が授与されました。

大瀬隆先生は、北海道教育大学札幌分校中学校課程体育専攻を1971年にご卒業後、北海学園札幌商業高校に就職され、1979年3月まで体育教師として勤務されました。そして同年4月より我が大学（当時の札幌商科大学）に助教授として着任されました。1996年に札幌学院大学人文学部教授に就任され、学部に第4番目の学科「こども発達学科」が開設されたおり、新学科に籍を移され、こども発達学科の学生には「専門ゼミナール」を、全学の学生には教養科目「スポーツ（旧「体育」）」をご担当され、多くの学生を指導してくださいました。

私は、大瀬先生と長年一般教育の部会で同席させていただきました。部会は一般教育会議、総合教育センターと変遷の後、今日では組織が閉じ、全学教務委員会が教養科目を統括しておりますが、当時大瀬先生は「体育」、私は「外国語」でご一緒でした。シャイで寡黙な先生は常に一歩引いて全体を眺め、悟りに似た境地で会議の方向を見守り続けてくださったように思います。先生のご専門は競技スキーとうかがっております。「スキー実習」が本学カリキュラムから消えた時の先生の悲しいお顔を今も忘れることができません。校務では、こども発達学科が開設されると、開設から6年連続で入試委員としてご活躍されました。当時の小林好和学科長（後に人文学部長）からは絶大なる信頼を得て学科のレベルを高め、多くの学生を教員として送り出してくださいました。学科の入試政策を立案し、身を粉にして高校を回られた先生の縁の下の力持ちとしての存在があったからこそと振り返って思う次第です。学部を代表して長年の先生のご尽力に感謝申し上げます。

臼井博先生は、大瀬先生と同期で1971年に北海道教育大学札幌校小学校教員養成課程をご卒業された後、研究者としての道を一直線に歩まれました。北海道大学大学院教育学研究科修士、博士両課程で研究に打ち込まれ、札幌大谷短期大学助手、母校の教育大札幌校助手、講師、助教授、教授と昇格の道を歩まれました。そして2010年に人文学部人間科学科教授として私たちは先生をお迎えすることができました。この間2013年には本学教職課程委員長の要職に就かれ、富田教授（現相模女子大）と二通教授との三枚看板で今日の教職課程の発展をもたらしてくださいましたことは本学にとってまことに大きな財産であります。教授会では黙して語らずの紳士でおら

れましたが、ある時挙手をして賛否を問う審議では、間髪を入れず、さっと真っ直ぐに高く挙手をされた先生のお姿が私の目に焼き付いております。学生を想う気持ちや研究者としての姿勢を肌で感じる事ができた瞬間でした。

先生のご専門は発達心理学を中心とした教育心理学で、これまであなたのご論文、ご著書を執筆されました。詳細は本号所収「臼井博教授の履歴、研究業績の概略」をご覧いただければ幸いです。また、教育委員会等の教育関係専門委員も務められ、本学はもちろんのこと、広く北海道の教育界にもご貢献くださいました。先生は常に研究の道を追究され、ご退職後も学の研鑽を積まれておられ、教育と研究に従事する者の鏡です。

大瀬先生、臼井先生お二人とも余人をもって代え難く、本年度は非常勤講師としてご出講をお願いいたしました。残念ながら臼井先生はご体調が思わしくなく、後期に入り非常勤講師を辞されることとなりました。臼井先生のご快復を人文学部教職員一同祈念しております。人文学部は大瀬隆名誉教授、臼井博名誉教授に対し、ここに感謝のしるしとして本号紀要を両先生の退職記念号とさせていただきます。今後とも人文学部を温かく見守り続けてくださいますようお願い申し上げます。